NPO 法人 おおさかこども多文化センター　Newsletter

OKoTaC 通信

オコタック

2017 年 4 月 30 日発行

NO.34

Ｐ２　ＮＰＯ活動報告（1）
『学校生活からみえる 外国にルーツのある子どもたちの抱える課題
～スクールソーシャルワークの視点から～』

Ｐ３　ＮＰＯ活動報告（2）
『H_2O サンタ NPO フェスティバル』『高校生活オリエンテーション』

Ｐ４　地域の子ども支援教室から㉔
『こどもの日本語教室』（泉佐野市）

Ｐ５　Air Mail　メキシコ便り㉜
『エルタヒン遺跡と土のピラミッド（後篇）』

Ｐ６　特別寄稿
『継承ベトナム語を学ぶ子どもたちに寄り添って』（1）

Ｐ７　ＮＰＯ活動報告（3）
『大阪市ボランティア・市民活動センター
開設 30 周年記念事業「多文化共生」分科会』

Ｐ８　イベント情報

おおさかこども多文化センター　活動報告（1）

第3回外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会

『学校生活からみえる　外国にルーツのある子どもたちの抱える課題 ～スクールソーシャルワークの視点から～』開催

2 月 19 日（日）、阿倍野市民学習センターにて標記学習会を開催し、教員や地域の日本語教室の支援者、外国ルーツの子どもの教育の研究者など、計 30 名の参加がありました。

講師の佐々木千里さんは、もとは中学の教員でしたが、のちに社会福祉士の資格を取ってソーシャルワーカーに転職された方です。講義ではまず、現場で目にするさまざまな困難を抱えた子どもたちの現状についてお話しされ、その上で、「スクールソーシャルワーク」の手法（問題を抱えた子どもに対しては、その子個人に問題があると考えず、彼と彼をとりまく環境との関係性の中で問題が生じていると捉えて、そこに働きかける）について詳しく教えてくださいました。

講師の佐々木千里さん

そして後半のワークショップでは、グループに分かれ、「実際に自分たちが関わっている子どもの現場で問題だと感じている事柄を挙げる」⇒「それについて現在把握している情報を整理」⇒「そこから問題の背景や要因を考えてみる」⇒「さらに把握すべき情報は何か」⇒「その上で、自分たちができること・やるべきことを話し合う」といった作業を体験しました。複雑な問題を抱えた子どもたちを前にすると、時として、何から手をつければよいのか、また自分はどこまで関わるべきなのかといった悩みや迷いを感じることもありますが、上記のようなスクールソーシャルワークのプロセス（アセスメントとプランニング）を、支援者同士（同僚間で）、チームで共有することで見えてくるものがあることを、それぞれの参加者は実感できたのではないでしょうか。

「困った子」は「困っている子」であるという認識とまなざし。そして教員・支援者を孤立・疲弊させない「同僚性」を育むことの大切さ。当事者の子ども・保護者のみならず、支援者に対するエール、視線のあたたかさがとても印象的でした。

参加者のお一人・西野容子さんが、受講の感想を寄せてくださいましたのでご紹介します。　（A. N）

……

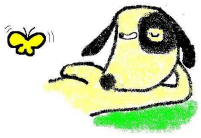
学習会に参加して――

（すみのえふれ愛日本語サークル　西野 容子）

私は大阪市住之江区の日本語教室でボランティアをしています。地域の日本語教室は、その時々の時代を反映し、学習者も活動内容も常に変化することを余儀なくされます。近年は特に、子どもたちの日本語習得、学習・学校生活支援における手さぐりの活動が大きなウエイトを占めるようになってきました。ボランティア教室からだけでは見えてこない「外国にルーツを持つ子どもたち」の学校・家庭の状況や、子どもたちの持つ問題点を知りたいと学習会に参加しましたが、子どもや親たちと教育の場で深く関わってこられた経験にもとづく佐々木先生のお話から、多くのことを勉強させていただきました。

まず、貧困を始めとする子どもたちが抱える問題は本当に深刻ですが、先生は外国ルーツの子どもたちは外国にルーツを持つが故に、一層困難な状況に置かれているという現状について詳しく話されました。私はそのお話から彼らの状況や背景を正しく理解する必要性を痛感しました。またソーシャルワークとは支援を必要とする子どもを取り巻く環境（保護者、学校、地域や制度等）が、子ども支援の主体であり、それらは協働し影響を与え合いながら、その関係性の中で問題解決をはかっていくという考え方で、先生はスクールソーシャルワーカーとして、子どもが安心・安全な環境の中で教育の機会を得て、それぞれの可能性を最大限に伸ばし、生活の質を向上させられるよう奮闘されているのです。

私はまだまだ子ども支援の経験が少ない中で、地域の教室にやってくる子どもたちの学校・家庭生活がよく分からないことから、本当に必要な支援が出来ているのかどうか不安を感じつつ、家庭や学校、行政にはそれぞれの役割があるからと、積極的に関わることをしてきませんでした。しかし、「ある人の問題は、その人と周囲の関係性の中で改善していく」というソーシャルワークの考え方を先生に教えていただきました。私はこれまでの活動を見直し、よりよい子ども支援を目指していくための大きなヒントをいただきました。ありがとうございました。



おおさかこども多文化センター　活動報告（2）

『H_2OサンタNPOフェスティバル』に参加しました

3月4日（土）から6日（月）までの3日間、阪急百貨店梅田本店9階の祝祭広場において開催された「第5回 H_2O サンタ NPO フェスティバル」に、オコタックのブースを出展しました。トークイベントやフィリピンと日本にルーツを持つ子どもたちのダンスパフォーマンスをステージで行い、多くの人にオコタックの活動を知っていただくことができました。

ブースでは、外国にルーツを持つ子どもの教育相談や、オコタックのマスコットキャラクター・ころちゃんのノート、クリアファイルなどの販売を行いました。そこでは、パネル展示もしていたのですが、その展示を熱心に見てくださるお客様もいらっしゃいました。このようにオコタックの活動に関心を持ってくださった方とお話しをしてみると、実際に自分の身近に外国にルーツを持つ子どもがいる方や、国際結婚をするので興味があるとおっしゃった方もいました。

日本で暮らす外国にルーツを持つ子どもたちが直面している困難な状況は、なかなか見えにくいものです。NPO活動に興味がある方がたくさん来場されていたという訳ではないのですが、少しでも関心を持って下さった方々に外国にルーツを持つ子どもたちの現状や、どのような支援が必要であるかなどを直接お話しできたことは、とてもいい機会でした。このような機会を通して、今後も支援の輪が広がっていけばいいなと思いました。　（K. N）

ピアにほんご『高校生活オリエンテーション』開催！

「高校に入ったら電子辞書を買ってください」「友だちを作るためには、クラブに入るのがいいです」「あいさつするのも大切！」

これは3月 25 日（土）に府立今宮工科高校で開催された「高校生活オリエンテーション」の、卒業生体験談の中での言葉。高校ではいじめはないかなぁ？　勉強がわからないときは誰か教えてくれるんだろうか―― 高校に合格したうれしさより、このような不安を抱えて高校生活を始めようとしている帰国・渡日の生徒たち。彼ら、彼女らと同じように外国にルーツを持つ先輩からのメッセージは、力強い励ましになったようでした。今年はフィリピン、ネパール、中国にルーツのある先輩たちが、自身の高校時代をふり返り、さまざまな困難を乗り越えてきた経験を語り、後輩たちにアドバイスをくれました。

このオリエンテーションは、4月から府立高校に入学する外国にルーツを持つ生徒・保護者向けに、府教委とピアにほんごが府立外教の協力を得て毎年開催しているもので、今年は生徒 22 名と保護者、教員、通訳など合わせて 92 名が参加、日本の高校生活についてさまざまな説明を受けました。ここでは、高校の先生方に直接質問したり、日本語でも書くのが難しい書類の書き方を教えてもらったり、言葉の不安を抱える場合には通訳してもらうことができたりと、それぞれの不安や問題が解決できる場です。「この情報がほしかったのよ」と、安心したように帰るみなさんの後ろ姿がとても印象的でした。　（K. S）

多文化な子ども あつまれ！

～地域の子ども支援教室から～㉔

こどもの日本語教室（泉佐野市）

1990 年、任意団体として設立された国際交流団体泉佐野地球交流協会(Izumisano Cross-cultural Association 略称 ica)では、その4年後の 1994 年に指導者1人と、学習者1人の「ica 日本語教室」が始まりました。それから 20 年以上が経過した現在、常時 50～70 名の地域在住外国人が「ica日本語教室」で日本語を学習しています。

学習者が増えるにつれ、子どもの学習者も在籍するようになり、2017 年度は 12 人の 18 歳以下の子どもたちが日本語を学習しました。年齢も未就学児、小・中・高校生などさまざまで、また、置かれている立場もさまざまです。当協会の日本語教室ではすべてマンツーマン指導をしていますので、それぞれの年齢、環境に応じていろいろな工夫がなされています。

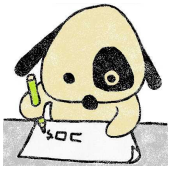
以下は主に中国の子どもへの日本語指導経験が豊富な M さんへのインタビュー内容ですが、これを通して教室の様子を知っていただこうと思います。

【工夫例】

- 飽きさせないように 10～15 分の単位で遊びの要素を取り入れる。具体的には、教室のあちこちにひらがなのカードを貼って「ひらがな探しゲーム」をする、どんぐりで数を数えさせる、すごろくをする、ご褒美のシールを貼るなど。
- ゲーム式のテキストを作る。
- お店屋さんごっこの実施で売り手、買い手の会話練習をさせる。
- 外出して、ハンバーグ屋、たこ焼き屋、ミスタードーナツで買い物をしたり、他の同国籍の生徒と一緒にみかん狩りをしたり、という実体験をさせて、それらを作文に書かせて文集を作る。

【問題点】

- 子どもたちの両親は在日5年以上たっていても日本語を話せないケースが多く、学校との連絡、家庭訪問、懇談会等で協力しなければならないことがある。また、時には子どもたちの喧嘩の仲裁等をしなければならないこともあるが、その際には、中国の友人に通訳を依頼しなければならないこともある。
- 日本語指導そのものは「こどものにほんご」などのテキストを使うが、数学、英語などの教科内容や、算数の足し算、引き算などの繰り上がり、繰り下がりなどの説明をするのは難しいので、それらを教えることができる人の応援が必要な場合がある。



私は日本語の勉強方法については経年いろいろ工夫するようになりましたが、活動の中で最も心がけてきたことは、言葉が分からないことで子どもが仲間外れにならないように気をつけたことと、保護者との交流でした。

この地域は関西国際空港に近く、空港関連の仕事をするために居住する外国人の数が増えてきています。それに伴って日本語指導が必要な子どもも増え、学校での言葉のサポートの必要性も出てきます。子どもたちが母国語の能力を維持しながら、日本語も習得し、日本の生活環境に慣れ、将来両国の懸け橋になれるような人材に育っていってくれればベストだと思います。　（泉佐野地球交流協会　池内正枝）

活動場所　：　特定非営利活動法人　泉佐野地球交流協会
〒598-0043　泉佐野市大西 1 丁目 16-5
日　　時　：　火・水・木・金・日の午前 10 時から午後5時までの間で週1～2回(1回1～2時間)
問合せ先　：　TEL　072-464-7201(担当：池内)　　E-mail　ica@ica.gr.jp

メキシコ便り㉜ 「エルタヒン遺跡と土のピラミッド（後篇）」

（おおさかこども多文化センター会員・金野広美）

エルタヒン遺跡で 13 年間、フエゴ・デ・ペロタの球技場の研究をしている「メキシコ文化研究会」のＫさんと食事をしたときに「神は敗者の生け贄は欲しない、ということで勝者が生け贄になったということですが、それは本当ですか」と私が聞くと、彼は「殺されている生け贄の服が立派だし、またそういう解釈もあるので、きっと生け贄は勝者だろうといわれていますが、本当のところはわかりません」と答えます。そしてほかにもいろいろ質問をしたのですが、いつも答えは「そういわれていますが、本当のところはわかりません」ばかりなのです。ま、確かに見てきた人はいないわけですから、「本当のところはわからない」のが正直なところでしょうが、「考古学という学問は、一見、地味で長い時間がかかる大変な学問だと思っていましたが、考えようによっては結構自由で、限りなく想像力を働かせることができる、楽しい学問なのではないですか」というとＫさんは、「そうなんですよ、親父には、誰も見てきたもんはおらんし、自分の好きなように解釈しとけばええのだから、楽な学問やな、といわれましたよ」と、笑いながら話されました。しかし、そんな彼も奨学金だけでやっていく生活は大変らしく、発掘作業やガイドのアルバイトをしながら食いつないでいるそうです。私は「発掘作業はともかくとして、ガイドの仕事はあなたには向いていないのではないですか」と、つい言ってしまいました。だって正直で実直な彼の最後の言葉はいつも「本当のところはわかりません」ばかりなのです。「観光客はガイドのはっきりした説明を聞いて納得したいのに、あなたのように、わかりませんばかりではね」というと、彼も「やはりそうでしょうね」と納得したように苦笑いしていました。

そんな彼の説明してくれた数々のエルタヒンの話を思い出しながら遺跡を見て回った次の日は、ベラクルスに移動しました。ベラクルスはパパントラからバスで5時間。スペイン人征服者エルナン・コルテスが、1519 年アメリカ大陸初の植民都市をつくったのがここベラクルスです。バスターミナルのとなりに宿をとり、すぐに路線バスに乗って1時間、テハールに着きました。土のピラミッドはラ・ホヤ遺跡と名前がついているのですが、タクシーの運転手に聞いても知らないといわれ、道行く人に聞いても首をふられ、ちょっと途方にくれてしまいましたが、雑貨屋のおばさんが「ああ、セサリオさんの家やね」と教えてくれました。そして、そこの家に行くとセサリオさんの親戚の人だという男性がでてきて、好きに見ていいといってくれたので、見学させてもらいました。

ありました、ありました、大きな敷地の中に高さ7メートル、横幅 10 メートル、周囲 30 メートルくらいのちょっと小ぶりの土のピラミッドが。半分くらいは崩れていましたが、階段やらが残り、確かにピラミッドに間違いありません。しかし、2年前に発見されたばかりなので、このピラミッドについては手付かずで何もまだわかっていないのだそうです。ここは個人の敷地のため、まず政府がこの土地を買い取ることから始めないといけないのですが、どうやら話は進んでいそうにもありませんでした。なにごとにものんびりのメキシコのことですから仕方がないのかもしれませんが、なにせ土ですからいつまでも野ざらしにしていては崩れてしまうと、私ひとりがやきもきしてしまいました。

特別寄稿　『継承ベトナム語を学ぶ子どもたちに寄り添って』（１）

近藤　美佳（ベトナム語講師・通訳・翻訳）

私は公立の学校でベトナムルーツの子どもたちにベトナム語を教えています。対象となる子どもの多くは日本生まれ、もしくは幼少期に来日した子どもです。このような子どもたちは、「現地」のことばである日本語が強くなる一方、親から「継承」したことばには苦手意識や抵抗感を抱いていることが少なくありません。「母語」ほど自由に使えることばでもなく、「現地語」のように使用頻度も高くなければ重要性も感じづらい。だけど、どうやっても自分から切り離すことのできない「継承語」。そんな継承ベトナム語を学ぶ子どもたちの様子を綴ってみたいと思います。

A 小学校の T ちゃんは、ご両親がベトナム語を子どもに継承することを強く望んでいて、家庭内ではベトナム語使用を心掛けているという家庭に育ち、T ちゃん自身も家族のためにベトナム語を頑張って身につけたいという強い意欲を持っていました。そのため、小学校でベトナム語の学習を始めたときには、すでにたくさんの基礎的なことばを知っている状態でした。しかし、これまで家族・親族内でしか話したことのなかったことばを外の世界で使用するということは簡単なことではありません。戸惑い、不安、抵抗、いろいろな気持ちから、はじめのうちはなかなかことばを発することができませんでした。

しかし、時の経過とともに、そんな気持ちもだんだん和らぎ、いろんなお話をするようになってくれた頃、T ちゃんがベトナム語の宿題をもっと欲しいとねだるようになりました。そのわけを聞いてみると、「最近お母さんが学校の宿題を見てくれなくなって寂しかったのだけど、ベトナム語の宿題なら一緒にできるから楽しい」とのこと。実は、ちょうどその頃、お母さんからも「最近学校の宿題を見るのが難しくなってきた」と相談があったのです。ベトナム語の宿題は家庭学習を巡る母娘の悩みを、みごとに解決したようでした。そんな T ちゃんは、その後もベトナム語の学習を着実に積み重ね、小学校卒業時には、短い文章を読み書きできるほどになりました。

全校児童の前で、自分で考えたベトナムクイズを披露する V ちゃん（写真左奥・舞台上）

一方、B 小学校の V ちゃんのご家庭は、「子どもたちは日本語がきちんとできればよい」という方針で、家庭内でも両親同士の会話以外は全て日本語でした。そのため、V ちゃんにとってベトナム語は「お母さんたちが話すことば」という少し遠い存在であり、V ちゃんはベトナム語に強い苦手意識を持っていました。

V ちゃんは音楽が得意でしたので、授業ではよくベトナム語の歌を歌いました。ある年、父の日にお父さんに歌をサプライズプレゼントしようと計画を立てて一緒に練習をしていました。しかし、父の日の１週間ほど前、家でお母さんとこっそり練習していたところを、お父さん本人に見つかってしまい、結局サプライズは失敗。「見つかっちゃったの！」と悔しがる V ちゃんでしたが、そのときにお父さんが思わずこぼした涙を思い出したのか、とても誇らしげに見えました。結局 V ちゃんは、ベトナム語の力だけを見れば「話す」という段階にも至りませんでしたが、それでもベトナムの文化についての学習は、楽しんで続けることができました。　（つづく）

おおさかこども多文化センター 活動報告（３）

『大阪市ボランティア・市民活動センター開設 30 周年記念事業 「多文化共生」分科会』

赤星小百合（大阪市ボランティア・市民活動センター）

編集部より

オコタックでは2月 26 日、標題のイベントに参加しました。オコタックが日頃から活動面でお世話になっている大阪市ボランティア・市民活動センターからの呼びかけに、応えさせていただいたものです。今回は主催者の立場から赤星さんに報告をお願いしました。

「大阪市ボランティア・市民活動センター開設 30 周年記念事業」を、2月 26 日、ナーシングアート大阪で開催、北は北海道から南は沖縄まで、374 人の参加者がありました。「地域」、「子ども」、「障がい者」、「多文化共生」など9つの分科会に分かれ、多様なボランティア・市民活動の実践報告がありました。

その中での「多文化共生」分科会のテーマは“内なる国際化”。大阪で外国にルーツを持つ人々をサポートする3団体に報告をしてもらいました。

まず一つ目の 「特定非営利活動法人・多文化共生センター大阪」の米澤千昌さんは、西淀川区で外国にルーツを持つ子どものための学習支援教室「きらきら」の活動を紹介。外国人保護者の悩みや不安解消のためのサポートをしつつ教室では子どもたちの自ら学ぶ力、自立する力を大切にしていると話しました。

二つ目の 「NPO 法人・おおさかこども多文化センター」からは事務局長の橋本義範さんと高校生2人が参加。大阪市交通局の協力のもと行っている、訪日観光客への通訳ボランティアの活動を紹介しました。自分の意思で来日する留学生とは異なり、親の都合で一家揃って来日した彼らの多くは、母国とは異なる学校生活や日常生活に不安や課題を抱えています。日本での定住の可能性が大きい渡日生は「将来、日本社会を支える大きな力になる」と話す橋本さんは、彼らの日本社会への参加経験が大切と考え、この活動を行っています。実際に地下鉄の駅で通訳をした2人は、「自信につながった」「自分を見つめることができた」と語りました。支援される側から支援する側になることで、ひとりの市民として活躍し、社会貢献することで自信につながったのでしょう。

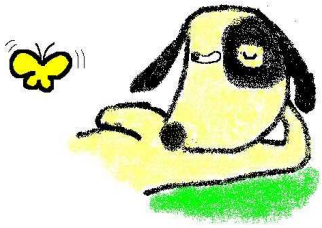
最後の「特定非営利活動法人・ 国際交流の会とよなか（TIFA）」は、日本語教室や子育てサロン、カフェの運営など、在住外国人の日常的なサポートを行っています。事務局長の筒井百合子さんは「活動は多岐にわたりますが、どれも在住外国人が孤立しないよう、一緒に地域で暮らしていきたいという思いから始まった」と話します。また、母国の家庭料理を提供しているカフェ「サパナ」の統括シェフとして活躍している海野バティさんは、来日当初、不安で日本では生きていけないと思ったそうですが、介護士の資格を取って仕事を得た後は自信がつき、今では新しく来日した外国人をサポートしています。「一人では難しいけれど、地域のみなさんと一緒に活動していくと楽しくできる、地域で安心して暮らしていくには、近所で助け合う関係が大切です」と語り、関係づくりの重要性を、参加者みんなが共有しました。

2017 年度オコタック総会及び特別講演のお知らせ

NPO 法人おおさかこども多文化センター（オコタック）の 2017 年度総会を、下記のように開催いたします。
今年度も総会後は、オコタックにふさわしく、桃山学院大学国際教養学部の友沢昭江先生に講演をお願いしました。
是非、多くの会員のみなさまに出席していただければと思っています。

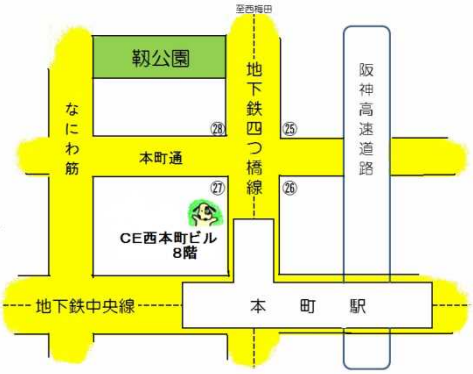
記

【日　時】　2017 年5月 27 日（土）　10:00～12:00
【場　所】　ヒューライツ大阪　セミナー室（下の地図参照）
　　おおさかこども多文化センターが入っているビルの同じフロアーです
【時　程】10:00　総　会
　　2016 年度事業報告・決算報告、2017 年度事業計画、その他
　　10:30～12:00
　　特別セミナー　：「外国人児童生徒の複数言語能力の研究―家庭言語環境から見えること」
　　― 保護者へのアンケート調査とインタビューを通して―
　　講　師　：　友沢昭江先生　（桃山学院大学国際教養学部）
＊　特別セミナーは、オコタック会員以外でも、会員同伴であれば参加することができます。（総会終了後入室）



イベント情報　～ ヒューライツ大阪・おおさかこども多文化センターの共催イベント　～

2017 年度「外国にルーツを持つ子どもの教育支援・連続セミナー」第１回
『～　最近気になる国・地域からの子どもをめぐって～〈ネパール編〉』
【講　師】　山本　愛さん（公益財団法人とよなか国際交流協会事務局次長）
【日　時】　6月3日（土）　午後2:00～4:00　（受付1:30～）
【場　所】　ヒューライツ大阪　セミナー室
【資料代】500 円（会員は 300 円）　　【定員】30 名（先着順）
【対象者】外国にルーツをもつ子どもの教育支援に関わっている方・関心ある方、学校教職員、地域の支援者
【申込み】ヒューライツ大阪　　名前、所属、メールアドレスを記入のうえ　E メール　webmail@hurights.or.jp
　　または　TEL　06－6543－7003　　FAX　06－6543－7004
　　なお、資料準備のため 5月 31 日（水）までにお申し込みください。

＜予告＞　連続セミナー
第2回　7月 29 日（土）　〈 ムスリム編 〉　　第3回　9月2日（土）　〈 ベトナム編 〉
開始時間、場所等すべて第1回と同じ。

NPO 法人 おおさかこども多文化センター（OKoTaC）　　代表　濵名猛志
〒550―0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階
Tel / Fax　06-6586-9477
E-mail　osakakodomo@gmail.com　　URL　http://okotac.org
郵便振替　【記号・番号】00940－1－272824
（他金融機関からは【店名】〇九九（ゼ ロキュウキュウ）
【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824）
口座名義『ＮＰＯ法人 おおさかこども多文化センター』
〔 ﾌﾘｶﾞﾅ：トクヒ〕オオサカコドモタブンカセンター〕